

# YMCA Camp Stories Vol.007



## 子どものときの体験が 豊かな未来を創る

鈴木 孝幸

Takayuki Suzuki

株式会社矢場とん 会長



### ▼YMCA との出会い

家が商売をしていた関係で、小学生のころから自宅近くにあったYMCAの活動に参加していました。両親にとってYMCAが安全・安心な場所であったからです。その当時YMCAに行くと見たことのないゲーム（バグギャモンやダイヤモンドゲーム）があり、卓球台があり、それは楽しい遊び場でした。年間の活動費 300

円を自転車での移動中に落とし、泣きながら家に帰ったこともありました。中学生になると「少年部」というグループ活動が盛んで、私は「パイオニア」という男子ばかりのやんちゃなグループでした。中学1年生の時には初めての中高生スキーキャンプ、中学2年生で2週間の男子長期キャンプに参加したことも鮮明に覚えています。妻との出会いもYMCAでした。高校生になった時に、「デラックス」というグループに彼女が参加しており、5月の野外例会でバスに乗り遅れ、一緒に歩いて帰ったことが最初の出会いでした。



奥様の純子さんとの出会いはYMCAの高校生グループで。以来50年以上の仲良し。

### ▼高校生ロサンゼルスセミナー

1964年、高校1年生の時に40日間の高校生ロサンゼルスセミナーに参加しました。その当時のフライトは給油の関係で直行便はなくハワイ経由かアラスカ経由。外貨の持ち出しも500ドルまでと制限がありました。ハワイに着いたときにトイレに行きたくな

りましたがWCもトイレも通じず、はじめてレストルームという言葉を知りました。ロサンゼルスに到着するや1週間のホームステイ、その後サンフランシスコへ移動し、ヨセミテ国立公園でのキャンプ等、貴重な体験をたくさんしました。4階建てのドジャーススタジアムや2層になっているベイブリッジ、片側16ブース、合わせて32ブースの料金所などその大きさに圧倒され、帰国後学校で報告した時に「アメリカは地平線の見える国でした。」と表現しました。

### ▼カンボジアに学校を！

矢場とんでは10年前から、カンボジアに小学校を作っています。矢場とん60周年記念の時のご祝儀を有効に使えないかと考えていた時に、カンボジアでは15万で井戸、30万でトイレ、500万で学校が建つと聞き、第1矢場とん小学校を設立しました。その後10年間で5校を作ること为目标に、「まかない募金」を始め、従業員みなでお金を出し合っています。毎年カンボジアを訪問していますが、会社の理念でもある「もらってあたりまえではなく、人に与えて喜んでもらえる」ことの実践ができていると自負しています。学生時代YMCAの活動で大勢の子どもたちと遊ぶことを経験してきました。だから、現地で子どもたちと関わる時も、何も無いところから工夫して遊びを創り出すことを知っています。

### ▼これからのキャンプに期待するもの

YMCAでは英語も学びましたが、実は大切な居場所でした。中学時代のキャンプリーダーは、24才から在籍しているワイズメンズクラブの仲間です。リーダー時代は、マジックファイヤーで人を驚かすことが大好きでしたし、大学卒業と同時に結婚を申し込んだ妻との出会いも、親代わりになっていただいた木本さん(元名古屋YMCA総主事)との出会いもすべてYMCAでした。人生のすべてをYMCAで学んだといって良いでしょう。昔のキャンプは最寄り駅から半日かけて歩いて移動したり、汚いトイレに食事大変でしたが、今の子どもたちは近代化された社会に生きています。キャンプに参加しやすいような環境を整えてやり、多くの子どもたちがキャンプを通して、生涯に渡る仲間との出会いや驚くような体験をしてほしいと願っています。

#### Profile



1947年名古屋市生まれ。創業者である父から名古屋名物味噌カツの店「矢場とん」を引き継ぎ、1980年社長就任。2014年より会長。小学生時代から名古屋YMCAの諸活動に参加し、大学生ではリーダーとして活躍。キャンプリーダー名は「やばとん」。現在も名古屋東海ワイズメンズクラブメンバーとして青少年育成のための支援をしている。

(文：名古屋YMCA 中村 隆)